

男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信No.7

事務局 秋田県立養護学校天王みどり学園

発行 平成27年6月29日

平成27年度第1男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会

1 全体会 「本地域における取組の発表」

事務局より、本地区のネットワークの状況や昨年度初めて本協議会を地元で開催した成果と課題を報告した後、男鹿市と五城目町の担当者から実践発表をしていただきました。

(1) おがっこ子ネウボラ取組 男鹿市健康子育て課副主幹 清水 有香

①取組の経緯

- ・産前・産後ケアとサポート及び子育て世代のメンタルケアを充実させ、母子保健コーナーディネーターを中心とした妊娠期から子育てまで切れ目のない支援を行う、男鹿版ネウボラ。(ネウボラはフィンランド語でアドバイスの意味) 今年度から助産婦と臨床心理士を配置し、保健師等チーム体制及び相談窓口の一本化を構築した。

②主な事業内容

ア 妊娠・出産・育児包括支援事業

- ・ママサポート119、産前・産後教室、乳児全戸訪問の実施。

イ 満5歳児けんこう相談

- ・集団行動や人との関わりが苦手な子を早期に発見し、専門機関が情報を共有し、就学に向けた支援につなげる。

ウ 産婦産後1ヵ月健診(医療機関で実施)

- ・授乳不安や育児不安の解消 心のケアを必要とする母親の育児支援を行う。

③満5歳児けんこう相談(年6回実施 今年度満5歳になる幼児及び保護者)

- ・幼児～検査、遊び(集団遊び・自由遊び) ・保護者～子育て学習会、個別相談
- ・スタッフ～男鹿市(教育委員会、福祉事務所、健康子育て課、保育会、各保育園・幼稚園) 医療療育センター みどり学園(特別支援教育アドバイザー 教育専門監)

※6月19日(金)、記念すべき1回目の「満5歳児けんこう相談」が実施されました!

(2) 就学支援シートの活用と5歳児発達相談会の取組

①就学支援シートの取組と課題 五城目町学校教育課係長 舘岡 裕美

〈変更点〉1年目の結果を受けて

- ・園の事務的な負担を減らすために記入欄を縮小したり、特記事項のない子どもについては保護者との確認作業を省略したりした。
- ・小学校へ引き継ぐ内容ある場合は、保護者と面談のうえ確認作業をしてもらう。また、詳細な事項は別紙で作成し、就学支援シートに添付する。

〈今後の課題〉

- ・就学支援シートに記載された情報が指導のヒントになることが多いので、伝えやすい作成方法を検討する。
- ・作成に当たっては、保護者の協力が不可欠となるので、共通理解がスムーズに図れる体制づくりが必要である。

②5歳児発達相談会 五城目町健康福祉課係長 福嶋 妙子

- ・小回りのきく発達相談を目指している。終了後は、カンファレンスを行い、情報を共有をしている。保護者の同意を得て、園に伝えている。
- ・医療療育センターにつなげる場合は、保護者の不安が大きいため、保健師が連絡調整を行い、初診に同行するようにしている。



2 市町村ごとの分科会 アンケートより（分科会と地元開催を中心に）



(1) 男鹿市

- ・担当者だけでは解決できないこともアドバイスをもらえると思った。
- ・地域に合った課題を出し合える会になったらいい。
- ・就学支援シートは、本来なら全員に配付したほうが保護者も書きやすいと思う。
- ・高校は地元の生徒だけでないので、連携のとり方が難しい。
- ・地元開催は関係者の深いつながりができて、何かあったときに相談しやすくなる。
- ・普段聞くことのできない関係者の話を聞くことができてよかった。

(2) 潟上市

- ・大人数の協議だったので、小グループに分かれてより具体的な情報交換をしたい。
- ・教育委員会の情報が分かりやすく、参加してよかった。
- ・福祉、保健、教育に関する人が一堂に集まる機会はほとんどないので、地区ごとの分科会は必要だと思う。（多数）
- ・5歳児健診の必要性や取組について掘り下げて話し合いができればよかった。
- ・市として、各課が連携することの大切さや必要性を感じた。（多数）
- ・5歳児健診の実施に向けての検討会を、この会で行っていくのはどうかと思っている。各分野の取組を確認して、課題が解決されるところがあるか、切れ目のない支援を検討できればよいと考えている。
- ・2回目の開催について、案件や内容を相談していきたい。

(3) 五城目町

- ・連携協議会の必要性や町内の各機関の取組について確認でき、大変有意義だった。
- ・行政と各教育現場での話を聞くよい機会だった。（多数）
- ・町内の各関係機関が場を共にして情報交換することができないので、こうした機会はよい。新たな課題もでてきようと思う。
- ・ぜひ2回目を開催したい。そして、連携の仕組みを具体的に確認できる会にしたい。
- ・地元開催では、気になる子どもの取組や情報間をしたい。

(4) 井川町

- ・情報の共有という点で有効だった。
- ・2回目は行政担当者も交えて情報共有できる場を地元で設けてほしい。

(5) 八郎潟町

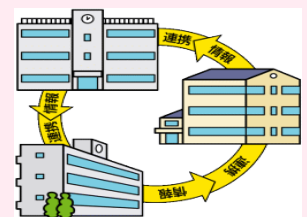
- ・人数の少ない地域は、他地区と合同で開催する方法もある。

(6) 大潟村

- ・行政も巻き込んで地元で開催し、具体的な話ができればよい。

(7) その他

- ・平成19年度第1回の本協議会に参加しているが、ようやく男鹿潟上南秋地区の「地域力」が育ってきていることをうれしく思う。



3 事務局からのお知らせ



(1) 次回の「男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会」について

- ・各市町村の行政担当者と連絡を取り合い、地元開催の意義、時期、メンバー、協議内容を確認したいと考えていますので、よろしくお願ひします。

(2) 「高等学校特別支援教育連絡会」を開催（平成27年6月17日 会場：天王みどり学園）

- ・金足農業高等学校・秋田西高等学校・男鹿工業高等学校・男鹿海洋高等学校・五城目高等学校の特別支援教育コーディネーターによる連絡会を行いました。特別な配慮を必要とする生徒に対する校内支援体制の取組を紹介し合うことで、自校の活動を振り返る機会につながりました。